

未来につなげ世界遺産

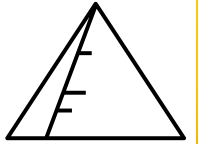
平和展示7/19~8/24

世界の 危機遺産



世界遺産は世界各国に二〇二四年一月時点で
一一九九件登録されているが、
そのうち五六件が危機遺産にも指定されている。
危機遺産リストに未掲載であっても、
自然災害や大規模開発、戦争や紛争によって
常に脅威にさらされているのだ。

世界遺産とは



世界遺産条約（正式名称：世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約）は一九七二年にユネスコ総会において採択され、一九五か国（二〇二四年一月時点）が締結しており、日本は一九九二年に条約に加盟している。その時に登録されたのは、法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、屋久島、白神山地の四件だった。日本は「文化遺産及び自然遺産を人類全体のための世界の遺産として損傷、破壊等の脅威から保護し、保存することが重要であると考え、国際的な協力・援助体制の構築に貢献」※してきた。

一九五〇～一九七〇年にかけて世界的な人口増加により人間の活動が増え、自然破壊とともに世界各地の遺産が危機にさらされたことが世界遺産条約のはじまりだった。そのきっかけはエジプト政府によるアスワン・ハイ・ダムの建設計画で、二〇以上ある古代遺跡の存続が危ぶまれた。ユネスコが一九六四年に呼びかけた「ヌビア・キャンペーン」には、五〇か国が協力し、多額の費用が寄せられ、「史上最大の考古学遺跡救出作戦」が実施された。

世界遺産は世界各国に一一九九件（二〇二四年一月時点）、日本では計二五件が登録されている。大きく三つに分類※²されている。

① **文化遺産**：九三三件（日本は二〇件）

顕著な普遍的価値を有する、記念物、建造物群、遺跡、文化的景観など

② **自然遺産**：二二七件（日本は五件）

顕著な普遍的価値を有する、地形や地質、生態系、絶滅のおそれのある動植物の生息・生育地など

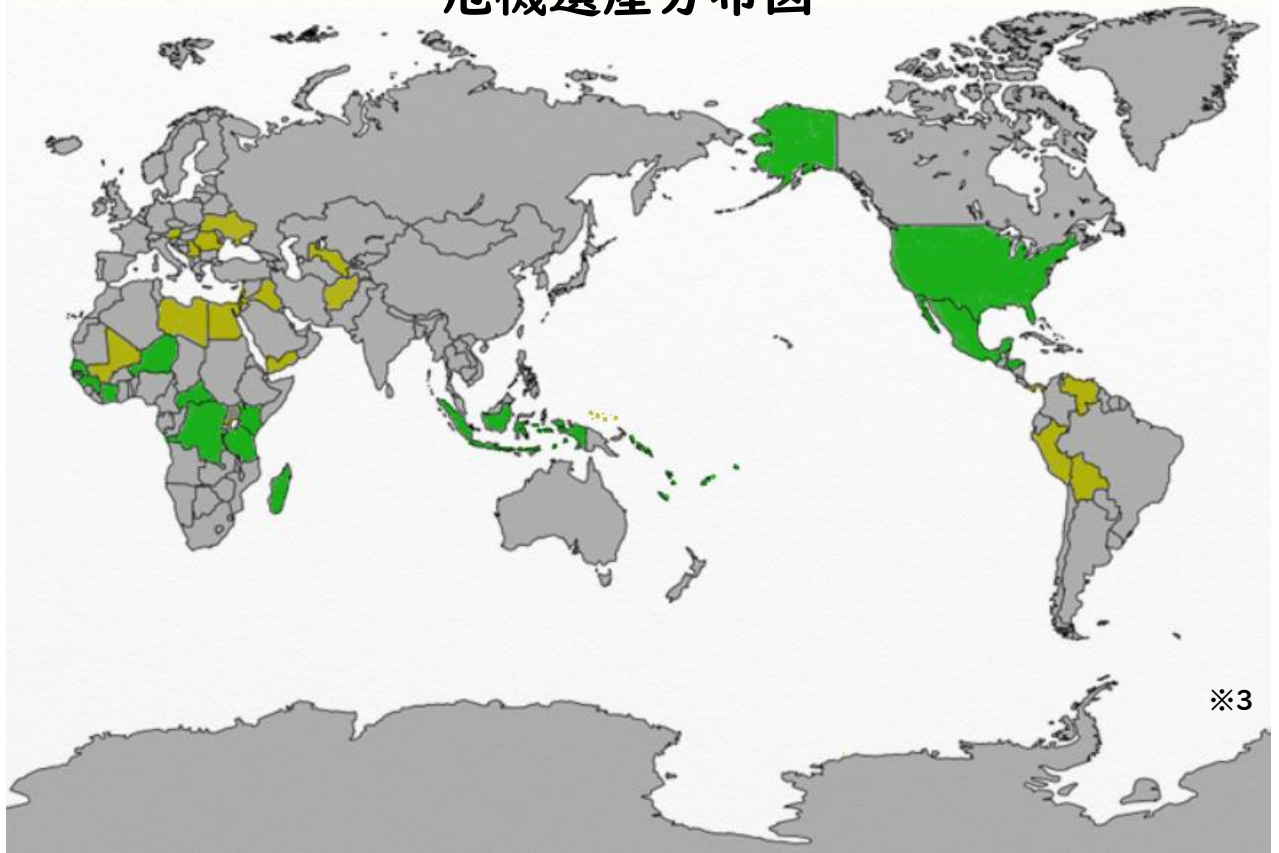
③ **複合遺産**：三九件（日本にはなし）

文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えているもの

危機遺産

日本では危機遺産を「危機にさらされている世界遺産」とよんでいる。一九七九年にリストが作成され、地震で被災したモンテネグロ（旧ユーゴスラビア）のコトルの街が最初に登録された。一九九〇年では危機遺産の登録はわずか七件であったが、二〇二三年には五六件に増加している（二〇一〇年、焼失により危機遺産に登録されていたウガンダ共和国「カスピのブガンダ王国の王墓」はユネスコの支援を受けて行った修復が評価されリストから削除された）。

－危機遺産分布図－

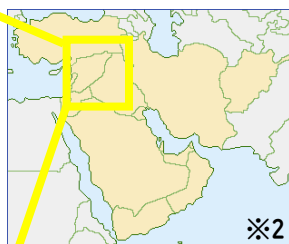


黄色：文化遺産、緑色：自然遺産

世界遺産のなかで危機遺産に未登録でも、常に何かしらの危機にさらされているものもある。世界遺産が危機に至る原因として、環境汚染・地球温暖化・紛争・観光（地域）開発・外来種の侵入・資源の過剰利用（オーバーユース）・商業的密猟などが挙げられる。危機遺産として登録されると、ワールド・ヘリテージ・ファンド（世界遺産基金：ユネスコの信託基金）への申請をすることができる。アメリカは二〇一七年、トランプ政権時代にユネスコから脱退した（それまでは約二二%資金を拠出していた）ことで、ワールド・ヘリテージ・ファンドは資金不足に陥ったことがあった（二〇二三年に正式に復帰）。また、危機遺産に登録されることで、世界から注目され、戦争の抑止力になる効果も認められている。

当初は危機遺産リストに載っていたが、リストから脱却した世界遺産も数多くある。そのうちのひとつに一九九二年、代表的な建物としてアンコールワットがあるアンコール（カンボジア共和国）があげられる。アンコールは世界遺産に登録されていたが、内戦による破壊や略奪が原因で危機遺産に登録されていた。その後、日本とフランスの支援により二〇〇四年に危機遺産から解除された。

シリア・アラブ共和国



首都…ダマスカス
人口…二一五六万人
民族…アラブ人が約七割、公用語はアラビア語。イスラム教が九割程度占めており、スンニ派が多数を占めている。
面積…一八・五万平方km



シリア国内の世界遺産

パルミラの遺跡のほかにシリア国内には世界遺産が五件あるが、すべて危機遺産に登録されている。天空の城「クラシク・デ・シュヴァリエ」とサラディン城、古代都市ダマスカス、古代都市ボスラ、古代都市アレppo、シリア北部の古代村落群である。

シリアの主な歴史

一九一八年、オスマントルコより独立する。一九二〇年にフランスの委託統治領となるが、一九四六年に独立する。一九五八年、エジプト・シリアによるアラブ連合共和国が成立するが、エジプトのナセル大統領の主導が強まり、三年後に反発したシリアは連合共和国から離脱した。その後、民主化を求める運動（アラブの春）が激化し、内戦に発展する。内戦から約一三年経過し戦火は治まりつつあるが、死者は五〇万七千人（二〇二四年三月時点）を超えている。国連の調査では、現在（二〇二四年二月時点）七二〇万人が国内避難民であり、五〇五万人が難民として周辺国に逃れている。

パルミラの遺跡

パルミラの遺跡は「世界で最も美しい廃墟」とよばれている。パルミラはギリシア語でナツメヤシを意味しており、当時はナツメヤシの緑に囲まれていた。そのナツメヤシの果実はデーツとよばれ、栄養価が高くスーパーフードのひとつとして、近年注目されている。



パルミラの概要・歴史

パルミラの遺跡のほかに、ペトラ遺跡（ヨルダン）、ペルセポリス（イラン）とともに「中東の3P遺跡」とよばれ、人気の観光名所となっている。パルミラはシリア砂漠の中心に位置している。一時期、ローマ帝国の属州となったパルミラは、紀元前一世紀に建設され、三世紀まで繁栄していた。

その古代ローマ時代、パルミラはメソポタミアと地中海を結ぶ最短かつ重要な都市だった。その道中にあるシリア砂漠は難関とされ、ラクダに乗った商人が通過するのに約四〇日かかったという。そのため、シリア砂漠の中心にあったパルミラは商人たちの休息地となり、オアシスだった。隊商都市と呼ばれた街は様々な文明の影響を受けた文化財や建築が残されている。ローマ様式だけではなく、ヘレニズム様式、オリエント様式などのさまざまな神殿があつたという。二七三年にローマ帝国の侵攻によってパルミラは壊滅的な状況となり、その後、栄光が復活することはなかった。壊滅したパルミラではあつたが、最大かつ荘厳な雰囲気建造物であったベル神殿はローマ軍が躊躇ったことで原型が残されているのだという（ISによる破壊以前まで）。

世界文化遺産への登録

一九八〇年、ユネスコ世界文化遺産に登録された。だが、二〇一一年にチュニジア（アフリカの最北端に位置）から始まったアラブの春の運動がシリアにまで及んだ。その後、シリア内戦に突入し治安が悪化したため、二〇一三年に危機遺産として登録された。

IS統治時代

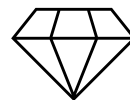
シリア国内の治安が悪化したままの二〇一五年五月、国家を名乗ることが認められていない過激派組織IS「Islamic State（イスラム国）」はシリア軍を襲撃し、その後パルミラを制圧した。そして、遺跡の管理責任者を殺害し、博物館の収蔵品を略奪するだけではなく、遺跡の破壊を続け、その映像を全世界に流し、衝撃を与えた。ISは「イスラム教成立以前の遺跡は偶像崇拜者のためのもの」※⁴だと主張している。それ以外に貴金属を売買して資金を獲得していた。ISによる犯行以前にも略奪が繰り返されており、元の点数がわからない状態だという。

パール・シャミン（パールシャミンと表記している場合もある）神殿と遺跡の中で最大かつ重要とされた宗教建造物であったベル神殿は、ダイナマイトによって破壊された。その後もISによる破壊は続き、円形劇場の一部が破壊されるなどの被害を受けている。

現在のシリア状況

二〇一一年から始まったシリア内戦は、現在もIS、反体制派武装勢力、トルコ軍、クルド勢力、シリア政府軍などが入り乱れて散発的に衝突しており、全土で多数の死傷者が発生している。二〇一八年五月にシリア政府軍が制圧した首都ダマスカスでさえ、現在でも散発的にテロ攻撃が発生しており、戦略的な要衝であるパルミラの状況も推して知るべしだろう。

日本の外務省は二〇一一年四月にシリア全土に危険レベル四（退避勧告）を発出し、二〇一二年三月に在シリア日本大使館を一時閉館し、いずれの措置とも現在も継続している。



世界遺産／危機遺産 参考文献・引用等

引用

- ※1 文化庁「世界遺産」 (https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/、2024年5月21日参照)
- ※2 日本ユネスコ協会連盟「世界遺産とは」 (<https://www.unesco.or.jp/activities/isan/about-worldheritage/>、2024年5月21日参照)
- ※3 世界遺産検定公式HP (https://www.sekaken.jp/pdf/202309_new.pdf、2024年5月31日参照) をもとに作成

参考 インターネット

- 外務省「世界遺産条約」 (https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/kyoryoku/unesco/isan/world/isan_1.html、2024年5月21日参照)
- NHK「ユネスコ アメリカの正式復帰を発表 トランプ前政権時代に脱退」 2023年7月12日 (<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230712/k10014126171000.html>、2024年5月22日参照)
- レオ・ホプキンソン著「世界遺産を救え！」創元社、2022年
- ユネスコ「ウガンダのカスピにあるブガンダ王の墓が危機に瀕する世界遺産リストから削除」 (<https://whc.unesco.org/en/news/2607>、2024年6月13日参照)
- NHK「世界遺産」プロジェクト編『危機遺産からのSOS』日本放送出版協会、2006年、2～3頁
- 日本大百科全書(ニッポニカ)「危機遺産」『コトバンク』 (<https://kotobank.jp/word/危機遺産-472637#w-472637>、2024年5月21日参照)

パルミラ遺跡 シリア 参考文献・引用等

画像

- ※1 外務省「シリア・アラブ共和国基礎データ」 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/syria/data.html>、2024年6月1日参照) を加工して作成
- ※2 外務省「中東」 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/middleeast.html>、2024年6月1日参照) を加工して作成
- ※3 外務省「シリア・アラブ共和国」 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/syria/index.html>、2024年6月20日参照)

引用

- ※4 其山史晃「無残な世界遺産の姿…粉々の神殿、彫刻の顔は破壊された」『朝日新聞』2019年1月30日 (<https://www.asahi.com/articles/ASMD3CDZMIDUHB1007.html>、2024年5月18日参照)

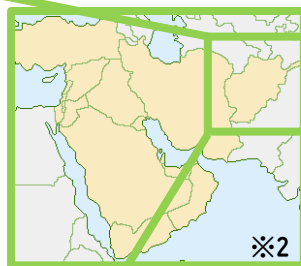
参考

- 外務省「シリア・アラブ共和国基礎データ」 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/syria/data.html>、2024年6月1日参照)
- Y-History 教材工房「アラブ連合共和国」『世界史の窓』 (https://www.y-history.net/appendix/wh1603-010_1.html、2024年6月1日参照)
- 恵泉女学園大学「パルミラの遺跡(シリア)」 (<https://www.keisen.ac.jp/blog/heritage/2013/10/post-59.html>、2024年6月7日参照)
- Y-History 教材工房「パルミラ」『世界史の窓』 (https://www.y-history.net/appendix/wh0103-090_2.html、2024年5月23日参照)
- 世界遺産オンラインガイド「パルミラの遺跡」 (<https://worldheritagesite.xyz/palmyra/>、2024年6月5日参照)
- 杉原美智久「パルミラの諸街道とその景観構成」『奈良大学大学院研究年報』vol.2号(1997年3月) 145～172ページ
- 「シリア内戦の死者数50万7000人超、13年経過」『ARAB NEWS』2024年3月15日 (https://www.arabnews.jp/article/middle-east/article_114565/、2024年6月4日参照)
- 芹澤 和美「ISによる破壊行為の犠牲となったシリアを代表する世界遺産の運命は」『CREA』2015年9月5日 (<https://crea.bunshun.jp/articles/-/8597>、2024年6月7日参照)
- 国連UNHCR協会「シリア」 (<https://www.japanforunhcr.org/activity-areas/syria>、2024年6月13日参照)

アフガニスタン・イスラム共和国



※3



※2



※1

首都…カブール

人口…三八九〇万人

民族…パシュトゥーン人が約四割、

公用語はダリー語とパシュトゥー語。イスラム教スンニ派が八割を占めている。

面積…六五万二二二五平方km

アフガニスタンの主な歴史

アフガニスタンは中央アジアの交易上の要衝であり、古代より様々な民族が支配してきた。アフガニスタン人による国家は一八世紀に成立するが、一九世紀にはグレートゲームと呼ばれる旧ロシア帝国とイギリスのかけひきに巻き込まれた。その結果、一八八〇年に外交によりイギリスの保護国化を受け入れた。

一九一九年にイギリスから独立し王政国家となったが、一九七三年にソ連で訓練を受けた若手将校のクーデターにより共和制となり、一九七八年に再びクーデターが起こり四月三〇日にアフガニスタン民主共和国となった。しかし、一九七九年にはソ連の軍事介入による政権交代が起こるなど不安定な政情が続き、隣国のパキスタンやイランに何百万人もの難民が流出している。一九九四年頃からイスラム原理主義のタリバーン（タリバンあるいはタリバーンとも）が急速に勢力を伸ばし、首都カブールを制圧する。その後タリバーンが政権を握り、二〇〇一年九月一日に過激派組織アルカイダがアメリカ同時多発テロを起こした。同年一〇月から始まったアメリカ、イギリスを中心とした報復措置により一二月にはタリバーン政権は崩壊し、暫定政権が誕生した。

二〇二〇年にアメリカのトランプ大統領は、タリバーンとの和平交渉に合意し、アメリカ軍がアフガニスタンから撤退すると発表。二〇二一年八月一日にタリバーン政権が復活した。国連の調査では、二〇二三年六月時点で一六一万人が難民として周辺諸国へ逃れており、不安定な情勢が続いている。

危機遺産

バーミヤーン溪谷の文化的景観と古代遺跡群

バーミヤーンは、アフガニスタン中央部に位置し、少数民族であるハザラの人々が住む「ハザラジャー」の中心都市である。ハザラの人々はモンゴル系のルーツを持つとされ、人口はアフガニスタン全体の一割程であり、イスラム教シーア派を信仰している人が多く、現地の多数派であるスンニ派から迫害を受けてきた。バーミヤーンは標高二五〇〇mの高地で、二つの山脈の狭間に位置し、古代から交通の要衝として知られていた。かの玄奘三蔵（げんじょうさんぞう…三蔵法師）も一五日間をこのバーミヤーンで過ごしている。

しかし、彼が目にしたであろう二体の大石仏の場所に残るのは、二つの大きな空白だけである。二〇〇一年三月一〇日、タリバーン政権は現場に招い

た放送局アルジャジーラのカメラの前で石仏を爆破したのだ。

バーミヤーンの北側の大崖に穿たれていた二体の巨大な石仏は、六世紀後半から七世紀前半にかけて建立されたと考えられている。東大仏の大きさは三八メートル、西大仏の大きさは五五メートルで、ハザラの人々は親しみを込めて「お父さん仏」「お母さん仏」と呼んでいた。

タリバーンはこのハザラの人々に銃口を突き付け、大仏に爆薬を仕掛けさせたという。「自分の家を斧で壊すような気持ちだった」と現地の男性は話している。

石仏のその後

ユネスコは二〇〇三年にこの遺跡を世界遺産に登録し、同時に危機遺産に登録した。タリバーン政権は二〇〇一年末に瓦解し、その後二〇年間はアフガニスタン・イスラム共和国の統治のもと遺跡の保全作業が行われてきたが、二〇二一年八月にタリバーンがカブールを陥落させ、アフガニスタン全土の掌握を宣言。バーミヤーンもタリバーンの手に落ちた。

ハザラジャートの現在

二〇二一年のタリバーンによる占領の際、遺物の一部が持ち去られる被害が出ているが、それ以降、タリバーンによる遺跡の直接的な破壊行為は報じられていない。

その一方、タリバーンによるハザラ人の虐殺は複数回報じられている。またシーア派を信仰するハザラ人はアフガニスタンの東部を支配するISにもテロの標的とされており、バーミヤンでも六名が犠牲となる事件が起きている。人間の命と、その尊厳の危機が、今日この時もハザラジャートでも続いているのだ。



※4

こちらのサイトには、タリバーンによる占領された直後の写真が掲載されている。「20年前に破壊した大仏跡地を警備するタリバン（写真）」『AFP BB NEWS』二〇二一年一〇月四日付。

アフガニスタン国内の世界遺産

バーミヤン遺跡のほかに「ジャームのミナレットと考古遺跡群」がある。ミナレットとはとがった屋根を持つ建物を意味し、ジャームのミナレットはアフガニスタンの西部、ハリー川とジャーム川の合流点のほとりにある。一二世紀のゴール朝の君主が築いたとされ、八角形の土台、幾何学文様、クイーファイ体アラビア文字によるコーランの刻印装飾などが残されている。また当時の建築技術の最高傑作であり、六五メートルの高さは世界第二位を誇っている。

世界第一位の高さのミナレットはインドの首都デリーにあり、国内最古の遺跡群の中の「クトゥブ・ミナール」で、高さは七十二・五メートル。ジャームのミナレットを模倣して築かれたと言われている。

ジャームのミナレットは、二〇〇二年に貴重な装飾が残されていることを評価され、世界遺産に登録された。しかし二〇〇一年から始まったアメリカの侵攻による混乱に乗じた文化財の盗掘や河川からの浸水などによる損傷が激しく、世界遺産と同時に危機遺産リストにも登録された。

アフガニスタン 参考文献・引用

画像

- ※1 外務省「アフガニスタン・イスラム共和国」(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/afghanistan/index.html>、2024年6月18日参照)を加工して作成
- ※2 外務省「中東」(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/middleeast.html>、2024年6月18日参照)
- ※3 外務省「アフガニスタン・イスラム共和国」(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/afghanistan/index.html>、2024年6月18日参照)
- ※4 「20年前に破壊した大仏跡地を警備するタリバン(写真)」『AFP BB NEWS』2021年10月4日(https://www.afpb.com/articles/-/3369177?cx_part=top_category&cx_position=3、2024年6月18日参照)

参考

- 外務省「アフガニスタン・イスラム共和国の基礎データ」(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/afghanistan/data.html>、2024年6月16日参照)
- Y-History 教材工房「アフガニスタン」『世界史の窓』(<https://www.y-history.net/appendix/wh1301-062.html>、2024年6月16日参照)
- 「アフガニスタンの世界遺産・地図」『世界遺産オンラインガイド』(<https://worldheritagesite.xyz/middle-east/afganistan/>、2024年6月15日参照)
- 国連UNHCR協会「アフガニスタンの難民危機について」(<https://www.japanforunhcr.org/activity-areas/afghanistan>、2024年6月16日参照)
- 法務省「アフガニスタン 世界各国の信教の自由に関する 2007 年版年次報告 民主主義・人権・労働局公表」(<https://www.moj.go.jp/isa/content/q30002623.pdf>、2024年6月20日参照)
- NHK「世界遺産」プロジェクト／編『危機遺産からのSOS』日本放送出版協会、2006年
- ペーテル・エークハウト著『消滅危機世界遺産』原書房、2022年
- フィル・ザブリスキー「特集地球の悲鳴 嘆きのハザラ アフガニスタンの異端者」『National Geographicマガジン』2008年2月号(<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/magazine/0802/feature05/index.shtml>、2024年6月18日参照)
- 「アフガニスタン：タリバンに虐殺されたハザラ人」『アムネスティ・インターナショナル』2021年8月25日(https://www.amnesty.or.jp/news/2021/0825_q302.html、2024年6月18日参照)
- 「タリバン、少数派ハザラ13人を殺害 10代少女も犠牲に＝国際人権団体」『BBC NEWS JAPAN』2021年10月6日(<https://www.bbc.com/japanese/58811937>、2024年6月18日参照)
- 「カブールの男子校で爆発、6人死亡 少数派ハザラ人地区」『BBC NEWS JAPAN』2022年4月20日(<https://www.bbc.com/japanese/61158256>、2024年6月18日参照)
- NHK「バーミヤン 彼らは「異教の文化を守りたい」と言った」『サイカルjournal by NHK』2021年9月24日(https://www3.nhk.or.jp/news/special/sci_cul/2021/09/story/story_210924/、2024年6月18日参照)
- 岩崎健太朗「モスク自爆テロ犯はIS系のウイグル人か アフガン北部でシーア派ハザラ人など死傷者180人以上に」『東京新聞 Tokyo Web』2021年10月9日(<https://www.tokyo-np.co.jp/article/135855>、2024年6月18日参照)
- 産経新聞「バーミヤンで仏頭略奪 タリバン制圧時の混乱乗じ」『産経ニュース』2021年9月13日(<https://www.sankei.com/article/20210913-LCYVAV2K7ROXPDGPLUM6NYHRI/>、2024年6月18日参照)
- 産経新聞「アフガン、バーミヤン遺跡前にガソリンスタンド 世界遺産の「文化的景観損なう」と懸念」『産経ニュース』2023年8月21日(<https://www.sankei.com/article/20230828-7KHM75LLX50XVNO144IIMGB0B4/>、2024年6月18日参照)
- 産経新聞「スペイン人ら6人死亡のアフガニスタン・バーミヤン銃撃でIS犯行声明」『産経ニュース』2024年5月20日(<https://www.sankei.com/article/20240520-4M2EDUKYGJJZNP6GCGQZS23D4/>、2024年6月18日参照)
- 中国新聞「タリバン、バーミヤン遺跡を掘削」『中国新聞デジタル』2022年1月31日(<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/117554>、2024年6月18日参照)
- 安倍雅史「20年を経てバーミヤン大仏の破壊を振り返る」『文化遺産の世界』(<https://www.isan-no-sekai.jp/column/7979>、2024年6月20日参照)
- 世界遺産詳解「ジャムのミナレットと考古遺跡群」『コトバンク』(<https://kotobank.jp/word/ジャムのミナレットと考古遺跡群-1496964>、2024年6月20日参照)

ウクライナ



面積…六〇万三七〇〇平方km

等。

首都…キーウ
人口…四一五九万人
民族…ウクライナ人が約七割、ロシア人が約二割、その他にベラルーシ人、モルドバ人、クリミア・タタール人、ユダヤ人等。



※3

歴史

キエフ・ルーシ

九〜一三世紀頃、首都キーウを中心都市とする国家、キエフ・ルーシが存在した。キエフ・ルーシはいくつもの公国に分かれており、諸公国をキエフの大公が統合していた。最盛期には、ヨーロッパの大国の一つに数えられるほど領土を所有していた。一三世紀中頃、ポロヴェツ人などの遊牧民との争いや、統治する諸公の対立により国力が衰退するなか、勢力を伸ばしていたモンゴルが襲来、キエフ・ルーシの中心であったキエフが陥落した。以後、ロシアのウラジミールにあったウラジミール大公国へと中心を移し、モンゴルの支配下に入った。

ウラジミール大公国はその後、統合していた諸公の間で抗争が生じるなか、その一つであったモスクワ公国が台頭、モンゴル支配からの自立を成し遂げる。このモスクワ公国は、一六世紀頃からロシアと呼ばれるようになった。

また、キエフ・ルーシのなかでもモンゴル襲来以前から力をつけていたウクライナ西部のハルィチ・ヴォリィニ大公国は、モンゴル支配下に入った後も栄えるが、一四世紀にはポーランド・リトアニアに敗れて滅亡した。

ウクライナの歴史認識では、ハルィチ・ヴォ
リニ大公国をキエフ・ルーシの後継国家、
「ウクライナ国家」であるとしている。

ウクライナ・コサック

モンゴルに占領された後、ウクライナの大部
分はリトアニア大公国、後にポーランドの支配
下に入った。その中で勢力を付けていったのが
ウクライナ・コサックである。コサックは武力
を基盤として生活を営む自由な戦士たちを指し、
大半は逃亡農奴たちによって形成された。勢力
が増すとポーランド政府から国境の周辺警備を
請け負うようになった。

しかし、ポーランド貴族の進出、宗教上・身
分上の対立など、ウクライナ・コサックを含め、
ウクライナ地域の住民はポーランドに対する不
満を募らせていく。一七世紀にウクライナ・コ
サックを中心に「フメリニツキーの蜂起」と呼
ばれる反乱を起し、ポーランドから独立を宣言、
ウクライナ・コサックを中心とするヘトマン国
家が生まれた。これを認めないポーランドに、
対抗するためにヘトマン国家はロシアに援助を
求めた。

ロシア・ソ連時代

ウクライナ・コサックと協定を結んだロシア
はポーランドと争った結果、ウクライナの国土
を東西に二分割し、それぞれ統治した。その後、
国力を衰退させたポーランドは隣接する各国の
間で領土が分割され、国家は消滅する。これに
よりロシアは領土を拡大、ウクライナの国土の
約8割がロシア領となった。

ロシアによる専制的な政治に不満を募らせて
いったウクライナの人々は独立を求め、第一次
世界大戦末期の第二次ロシア革命勃発時、ウク
ライナでは「ウクライナ人民共和国」が独立を
宣言する。しかし、ロシアのソビエト政権に敗
れ、新しく誕生したソビエト連邦の構成国とな
る。

その後のウクライナは、ソ連時代の大飢饉
「ホロドモール」や、第二次世界大戦中のナチ
ス・ドイツ対ソ連の戦いで大量の犠牲者を出し
ている。二〇世紀、ソ連解体に伴いウクライナ
は独立国となる。

ウクライナの危機遺産

二〇二二年二月、ロシアは特別軍事作戦と称して、ウクライナに侵攻を開始した。ロシアによるミサイル攻撃によって、人的被害だけではなく多くの文化財も被害を受けている。ウクライナでは「文化財への攻撃は私たちのアイデンティティーに対する攻撃」※⁴とする意見も出ている。

ユネスコの発表によれば現在※⁵、宗教施設が一三七か所、歴史的または芸術的価値のある建築物一九一か所、博物館三一か所、記念碑二五か所、公文書館一か所、計四〇〇の施設で被害が確認されている。文化財を破壊されないよう、施設の周辺には軍事設備の設置を行っている。なかった博物館も、ミサイルによって炎上、多くの書籍や絵画が焼け建物も崩壊した。二〇二三年一月、オデーサ歴史地区が世界文化遺産に登録、同時に危機遺産に指定された。その後、二つの文化遺産が危機遺産に指定されている。

文化財を守ろうと銅像や記念碑を土嚢や板で覆って保護する取り組みや、破壊されたときの備えとして、文化財を3Dデータや画像で記録、復元時の資料とする取り組みも行われている。

危機遺産

キーウの聖ソフィア大聖堂と
関連する修道院建築物群、
キーウのペチェールシク大修道院



一九九〇年文化遺産登録
二〇二三年危機遺産登録

九世紀よりウクライナの首都キーウで栄えたキエフ・ルーシ。その君主であったヤロスラフ公によって一一世紀に建てられた、現存するキーウ最古の教会。内部は当時のピザンチ様式のまま「乙女オランダの像」などの一一世紀初頭のモザイクやフレスコ画を観ることができている。現在は特定の宗派によらない博物館となっている。

ペチェールシク大修道院は寺院の下に地下墳墓と修道院があり、ウクライナ全土から多くの巡礼者が訪れている。

危機遺産

リヴィウの歴史地区



一九九八年文化遺産登録
二〇二三年危機遺産登録

ウクライナの文化都市リヴィウの街。文化遺産に登録されたのは「ムソキー・ザモック（高い城の意）」と周辺地域を含む中心部、街の南にある聖ユーラ大聖堂を含む地域。

ムソキー・ザモックは一三世紀に建てられた城で、現在は城壁のみが残り公園として整備されている。周辺地域には同年代に建てられた教会などが残されている。そのほかに、中心部には近世以降に発展した「セレドミスティア」と呼ばれる地域があり、ルネッサンス・マニエリスム・バロック・ロココ様式などの建築物が残されている。

聖ユーラ大聖堂は一八世紀半ばに建てられ、ドラゴン退治の伝説が残されている聖ゲオルギウスを祭っている。

危機遺産

オデーサの歴史地区



二〇二三年文化遺産登録
二〇二三年危機遺産登録

ウクライナ南部、黒海に面した都市オデーサは、一九世紀からヨーロッパとアジアを結び、ヨーロッパ中の民族・文化が集まる湾岸都市として発展した。街並みにはさまざまな時代・地方の影響を受けた多彩な建築・芸術文化が見られ、「黒海の真珠」と謳われている。

オデーサの象徴としてオデーサ国立アカデミック・オペラ・バレエ劇場が挙げられる。また全長一四二メートルのポチヨムキン階段も有名だ。

オデーサの世界遺産登録時にウクライナは、ロシアによる侵攻から緊急的登録推薦を要請した。これにより一年半を要する手順を減らし、約四カ月で登録に至った。これに対しロシアは「政治的動機によるもの」※9と非難した。

ウクライナ 参考文献・引用

画像

- ※1 外務省「ウクライナ」 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ukraine/index.html>、2024年6月19日参照)
- ※2 外務省「地域別インデックス（欧州）」 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/europe.html>、2024年6月19日参照) を加工して作成
- ※3～8 外務省「ウクライナ」 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ukraine/index.html>、2024年6月19日参照)

引用

- ※4 NHK「もうひとつの戦争犯罪？ ～破壊されるウクライナの文化財～」 (https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/articles/feature/2022/07/22/23915.html、2024年6月19日参照)
- ※9 森井雄一「「黒海の真珠」ウクライナ南部オデーサ、世界遺産に…「危機遺産」にも指定」『読売新聞』2023年1月26日 (<https://www.yomiuri.co.jp/world/20230126-0YTIT50090/>、2024年6月19日参照)

参考

- ※5 ユネスコ「Damaged cultural sites in Ukraine verified by UNESCO」 (<https://www.unesco.org/en/articles/damaged-cultural-sites-ukraine-verified-unesco>、2024年6月19日参照)
- 服部倫卓・原田義也編『ウクライナを知るための65章』明石書店、2018年
- 古田陽久『世界遺産ガイドーウクライナ編ー』シンクタンクセとうち総合研究機構、2022年
- 黛秋津編『講義 ウクライナの歴史』山川出版社、2023年
- 中井和夫著『ウクライナ・ベラルーシ史』山川出版社、2023年
- Y-History 教材工房「ウクライナ」『世界史の窓』 (<https://www.y-history.net/appendix/wh1501-119.html>、2024年6月19日参照)
- 外務省「ウクライナ」 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ukraine/index.html>、2024年6月19日参照)
- 森井雄一「「黒海の真珠」ウクライナ南部オデーサ、世界遺産に…「危機遺産」にも指定」『読売新聞』2023年1月26日 (<https://www.yomiuri.co.jp/world/20230126-0YTIT50090/>、2024年6月19日参照)
- 長谷川大「世界遺産データベース リヴィウ歴史地区」 (<https://www.hasegawadai2.com/ヨーロッパの世界遺産/ウクライナの世界遺産/リヴィウ歴史地区/>、2024年6月19日参照)
- 長谷川大「世界遺産データベース オデーサ歴史地区」 (<https://www.hasegawadai2.com/ヨーロッパの世界遺産/ウクライナの世界遺産/オデーサ歴史地区/>、2024年6月19日参照)
- デジタル大辞泉「聖ソフィア大聖堂」『コトバンク』 (<https://kotobank.jp/word/聖ソフィア大聖堂-545746>、2024年6月20日参照)

本の紹介

いっぱんしょ
一般書… 19～25ページ

じどうしょ
児童書… 26～27ページ

図 の 見 方

- ①資料のタイトル
- ②請求番号(資料の背表紙に記載されている番号)
- ③出版社
- ④著者名
- ⑤出版年
- ⑥資料の概要

①		②
③	④	⑤
⑥		

いっばんしょ 一般書

シリアの秘密図書館			010 ミ	世界の博物館 18			069 セ18
東京創元社	デルフィーヌ・ミヌーイ／著 藤田 真利子／訳	2018年02月		講談社	増田 精一／編 杉村 棟／編	1979年03月	
シリアの首都ダマスカス近郊の町ダラヤで、政府軍に包囲された人々。建物が破壊され、隣人が犠牲となる極限状況下、彼らは本を糧にして生きた…。図書館に安らぎを、本に希望を見出した人々を描くノンフィクション。 【資料番号】0560081734				【資料番号】0500149890			
となりのイスラム			167 ナ	ヨルダン・シリア聖書の旅			193 ウ
ミシマ社	内藤 正典／著	2016年07月		ミルトス	牛山 剛／著 横山 匡／写真	1988年09月	
連日ニュースで耳にする「イスラム」の話題。テロや人質といった怖いイメージがつきまとうけれど、本当はいったいどんな人たちなの？ シリア・トルコ研究第一人者が、イスラム教徒の人間像と社会をわかりやすく紹介する。 【資料番号】0560002804				【資料番号】0500218074			
水中文化遺産			202 ス	世界遺産と歴史学			204 セ
勉誠出版	林田 憲三／編	2017年03月		山川出版社	佐藤 信／編	2005年12月	
科学技術の進展が海陸の境界を消し去り、新たな発見が続出している。沈没船や出土品が物語る交流と衝突の歴史、海辺の遺跡群から浮かぶ人々の営み…。最新の科学的知見を交えながら、水中文化遺産研究の最前線を伝える。 【資料番号】0501584649				2004年開催の、世界遺産のもつ意義や問題点について歴史学の立場から検討する、史学会大会の公開シンポジウムでの発表に増補した論考集。各地の世界遺産の具体的事例や、登録をめざす地域に関する報告やコメントを収載。 【資料番号】0501404557			
東大生が教える「戦争の終わり方」の歴史			204 ト	失われた都市・文明百科事典			209 シ
星海社	東大カルペ・ディエム／著 西岡 竜誠／監修	2023年10月		柊風舎	マイケル・シャリーニ＝ ジェンセン／著 アンソニー・ヴィヴィアン／著 大城 道則／監訳	2024年05月	
世界史上、数多くの戦争が行われてきたが、その後の世界を大きく左右したのは戦争の過程よりもその「終わり方」だった。戦争の終わり方を5つのパターンに分類し、31の戦争の終わり方がその後の世界に与えた影響をまとめる。 【資料番号】0560355410				かつて地球上に存在しながら、消滅した86の都市や文明。なぜこれらの都市は発展し、繁栄し、栄えたのか。そしてなぜ滅び去ったのかに迫る。現在消滅の危機に直面している都市、神話上の都市についても詳細に紹介。 【資料番号】0560381019			

なぜ人類は戦争で文化破壊を繰り返すのか			209 ハ	オリエント古代の探求			209 マ
原書房	ロバート・ベヴァン／著 駒木 令／訳	2022年02月		中央公論新社	前田 耕作／[ほか]著 清岡 央／聞き手・編	2021年04月	
ナチスのホロコースト、チベット問題、世界貿易センタービル、パーミヤンの仏像…。人命だけでなく、建築物や文化財も破壊する戦争や内乱。民族や共同体自体を消し去る行為でもある文化破壊の構造を探る。 【資料番号】0560276055				未盗掘墓発見の緊張と興奮。精緻な考古学的手法による発掘成果。文化遺産の保存・修復事業への国際的貢献…。9人の研究者へのインタビューで、パーミヤン遺跡、サッカラ遺跡など海外調査の現場をリアルに伝える。 【資料番号】0560381027			
軍事力で平和は守れるのか			209 ミ	シンガポール戦跡ガイド			210.7 コ
岩波書店	南塚 信吾／著 油井 大三郎／著 木畑 洋一／著 山田 朗／著	2023年08月		社会批評社	小西 誠／著	2014年06月	
世界中で高まる防衛力強化への潮流は、本当に戦争の抑止につながるのか。戦争・軍事・平和をめぐる人類百余年の営みとは。近現代における世界・日本の戦争から軍事力がもった意味を問い直し、平和への教訓を探る。 【資料番号】0560343241				大検証(肅清)で約5万人が殺害された日本軍占領下のシンガポール。そこには今も、日本軍とイギリス軍・現地民衆との間の激しい戦闘の跡が残る。シンガポールに残されているアジア・太平洋戦争の戦跡を写真とともに紹介する。 【資料番号】0550356678			
考古学の成果と現代			212.4 カ	埼玉の戦争遺跡			213.4 セ
雄山閣	利部 修／著	2022年10月		まつやま書房	関口 和也／著	2023年04月	
「由里と由利の地名に関する考察」「唐草花文の分類と変遷」など、秋田県の地域および日本列島における考古学研究の成果をまとめる。さらに戦争遺跡がもつ現代社会との関係を考察し、未来を志向する。 【資料番号】0560378852				所沢飛行場、普門院の海軍兵器、東京第一陸軍造兵廠川越製造所、高谷地下壕群、B29搭乗員慰霊碑、世界無名戦士之墓…。戦争があったことを示す、埼玉の遺跡たちを写真とともに紹介する。 【資料番号】0560380010			
日吉台地下壕 大学と戦争			213.7 ア	日常と地域の戦争遺跡			216.3 オ
高文研	阿久澤 武史／著 都倉 武之／著 亀岡 敦子／著 安藤 広道／著	2023年09月		批評社	大西 進／編	2022年10月	
戦後の4年間、慶應義塾大学日吉キャンパスは米軍に接収され、日吉の丘には地下軍事施設群が残された。キャンパスの戦争遺跡を通して、ここで起こった出来事、ここにいた人々や関係する事柄を、時間と空間を超えて検証する。 【資料番号】0560381035				日常にいまなお残る太平洋戦争の戦争遺跡の全貌を明らかにする。陸軍大正飛行場と関係の深い地域である大阪府八尾市域を中心に近郊6市の戦争と戦争遺跡を綿密に調査し、その実相を解明する。「日常の中の戦争遺跡」の続編。 【資料番号】0560380002			
呉・江田島・広島戦争遺跡ガイドブック			217.6 オ	九州の戦争遺跡			219.0 イ
潮書房光人新社	奥本 剛／著	2023年07月		海鳥社	江浜 明德／著	2012年08月	
明治以来、本土防衛のための一大要塞地帯となった広島湾岸地域。空襲や原爆、さらに戦後の再開発の波に耐え、いまもなおその姿を見ることがができる貴重な近代戦争遺構50カ所を紹介する。新たに判明した真実等を加えた令和版。 【資料番号】0560378879				人の記憶は失われても、形あるモノとしての存在自体が戦争の実相を伝え続ける戦争遺跡。九州各地127カ所の戦跡を地図とともに巡る。各地の米軍駐留遺構、戦争・平和資料館も紹介する。 【資料番号】0550232601			

アンコール・ワット			223 イ	歴史物語ミャンマー 上・下			223 ヤ1・2
日本テレビ放送網	石沢 良昭／著	1989年10月		カナリア書房	山口 洋一／著	2011年10月	
【資料番号】0500380584				元・駐ミャンマー大使によるミャンマー史。2000年余りにわたるミャンマーの歴史を紐解き、つぶさにその流れをたどる。上は、ミャンマーの黎明期から、コンバウン時代前期までを収録する。下は、コンバウン時代後期から、独立以降の国造りの歩みまでを収録する。 【資料番号】0550159973(上)、0550159949(下)			
ビザンティン建築の謎			227 タ	アフガニスタン史			227 マ
日刊工業新聞社	武野 純一／著	2013年09月		河出書房新社	前田 耕作／著 山根 聡／著	2002年10月	
ビザンティン帝国が減びて既に500年以上経過しているにもかかわらず、イスタンブールには多くのビザンティン建築物が現存している。ビザンティン建築物を調査し、イスタンブールに潜むビザンティン都市の防衛機能を探る。 【資料番号】0550328650				ペルシア帝国(イラン)とインドに挟まれ、米ソ冷戦など大国の争いに巻き込まれ続け、9・11の同時多発テロで世界の注目をあびたアフガニスタン。その国内外の問題と歴史的経緯を知るための必読書。 【資料番号】0501229980			
世界遺産で巡るフランス歴史の旅			235 マ	悲劇の世界遺産			290 イ
朝日新聞出版	松本 慎二／著	2013年10月		文藝春秋	井出 明／著	2021年05月	
ユネスコ文化局で世界遺産のデジタルアーカイブ化に取り組んできたエキスパートが、フランスの世界文化遺産が持つ歴史やエピソード、世界遺産登録の経緯などを、豊富なカラー写真とともに紹介する。 【資料番号】0550328768				世界遺産には、光と影の両義性が含まれている。戦争や災害などの悲劇の記憶を巡る旅＝ダークツーリズムの視点から、アウシュビッツ強制収容所、産業遺産、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、震災遺構等を掘り下げる。 【資料番号】0560380037			
旅地図世界			G 290 タ	世界遺産の歩き方			G 290 チ
昭文社		2022年11月		地球の歩き方	地球の歩き方編集室／編集 世界遺産アカデミー 世界遺産検定事務局／監修	2022年08月	
世界各地の名所・観光スポットを、写真＋記事＋アイコン付き地図で見やすく、詳しく紹介。世界遺産、世界の名物グルメを網羅し、世界美術館めぐりなども収録。データ:2022年6月現在。 【資料番号】0560308840				ドゥルミトル国立公園、アルペロベッロのトゥルツリ…。世界遺産検定によく出る世界遺産の知識やアクセス情報を、旅の体験談やクイズとともに紹介する。中山卓也インタビューも掲載。データ:2022年6月現在。 【資料番号】0560292232			
語り継がれる人類の「悲劇の記憶」 百科図鑑			290 ホ	旅地図日本			G 291 タ
原書房	ピーター・ホーエンハウス／著 杉田 真／訳 小金 輝彦／訳	2022年11月		昭文社		2022年11月	
災害や差別を記した碑や戦跡等、苦悩や悲しみとともに刻まれた「負の遺産」。300か所以上におよぶ災害遺産、戦争遺跡、さまざまな悲劇のメモリアルから、いまなお人々に影響を与えている痕跡までを多数の写真とともに紹介。 【資料番号】0560378844				日本全国の名所・観光スポットを、写真＋記事＋アイコン付き地図で見やすく、詳しく紹介。世界遺産、国指定文化財、日本の100選、島詳細マップも掲載。データ:2022年7月現在。 【資料番号】0560308859			

イスタンブール歴史の旅			292 ノ	大インドス世界への旅			292 フ
小学館	野中 恵子／文 大村 次郷／写真	2002年07月		彩流社	船尾 修／写真・文	2022年11月	
ビザンティウム、コンスタンティノープル、イスタンブール。世界遺産イスタンブール歴史地区に、ローマ、ビザンツ、オスマン三大帝国の首都の歴史的変遷をたどる。空間と時間のはるかなる旅への招待。 【資料番号】0501142619				ラダック、ザンスカール、カシミール、カラコルムなど、源流から河口までの大自然と民俗・文化を探訪。山を越え国境を越え、紛争下を歩き、通い続けた大河インドス流域の魅力を、迫力ある写真と味わい深い文章で紹介する。 【資料番号】0560310935			
美しきウクライナ			293 ウ	スペイン巡礼の道を行く			293 ヨ
日経ナショナル ジオグラフィック	ウクライナー／著 岡本 朋子／訳 平野 高志／日本語版監修	2023年03月		東京書籍	米山 智美／文 古財 秀昭／写真	2002年04月	
有名な観光地からあまり知られていない小さな村まで、戦禍が及ぶ前のウクライナをくまなく訪ね、そこに息づく文化・自然・人々の生活を記録。ほんとうのウクライナの姿を、写真で鮮やかに伝える 【資料番号】0560325322				千年の歴史をもつキリスト教三大巡礼地の一つを目指す道。そこに今、世界中から若者が集まっている。800キロを幾度もたどり、彼らの声を聞いた。テレビ番組「大使の国のたからもの」の構成作家を務めた著者が巡礼道を行く。 【資料番号】0501172948			
アンデス・インカをゆく			296 ヨ	平和に生きる権利は国境を超える			302 ネ
小学館	義井 豊／著	2002年07月		あけび書房	猫塚 義夫／著 清末 愛砂／著	2023年11月	
「空中都市マチュピチュ」「インカの都クスコ」「征服者ピサロの街リマ」などロマンに満ちた遺跡から、ペルーに残る謎の遺産インカの魅力に迫る。旅行案内を兼ねる美術書。 【資料番号】0501142627				国際支援活動の基軸として日本国憲法をどのように位置づけるのか。パレスチナとアフガニスタンの支援活動が続ける医師と法学者が、現地訪問の経験から、「平和的生存権」と「法の支配」と、日本人がなすべきことを問う。 【資料番号】0560367989			
アフガニスタンを知るための70章			302 マ	わたしの町は戦場になった			302 ウ
明石書店	前田 耕作／編著 山内 和也／編著	2021年09月		東京創元社	ミリアム・ラウィック／著 フィリップ・ロブジョワ／著 大林 薫／訳	2018年10月	
東西冷戦や宗教原理主義の台頭、いわゆる「テロとの戦い」の舞台となるなど、数十年にわたり苦しい状況に置かれているアフガニスタン。その歴史と文化、人びとの暮らしを、平和と復興への期待を込めて幅広く紹介する。 【資料番号】0560260271				戦闘の影に覆われていく平和な日常。学校の近くに落ちる爆弾、地下への避難。スナイパーが潜む通学路…。シリア内戦下の日々を、1人の少女が曇りなき目で綴った、21世紀版「アンネの日記」 【資料番号】0560117168			
ウクライナ戦争			319 コ	隣人のあなた			R 329 ヤ
筑摩書房	小泉 悠／著	2022年12月		岩波書店	安田 菜津紀／著	2022年11月	
2022年2月、ロシアによるウクライナ侵攻が始まった。国際世論の非難を浴びながらも「特別軍事作戦」を続けるプーチン。この戦争はなぜ始まり、戦場では何が起きているのか。軍事研究者が歴史的事件の全貌を伝える。 【資料番号】0560311015				入管での理不尽な死、技能実習生の過酷な孤立出産、外国人へのヘイトと監視の目…。シリアで、ウクライナで、世界各国で。国内外で苦境にある人々を見つめてきたジャーナリストが、日本のいまの実態を報告する。 【資料番号】0560306729			

有事、国民は避難できるのか			393 ニ	世界遺産を問い直す			519 ヨ
国書刊行会	日本安全保障戦略研究所／ 編著 小川 清史／〔著〕 浜谷 英博／〔著〕 樋口 譲次／〔著〕	2022年10月		山と溪谷社	吉田 正人／著 筑波大学世界遺産専攻吉田ゼミ／〔著〕	2018年08 月	
「戦争」から目を背けてきた日本人に大きな衝撃を与えたロシアのウクライナ軍事侵攻。民間防衛のない日本は本当に安全・安心なのか。日本国民を戦争被害から保護する民間防衛体制のあり方を、緊急提言する。 【資料番号】0560306737				人と自然の相互関係を守るはずだった世界遺産条約が、単なる観光地ブランドになってしまったのはなぜか。自然遺産である白神山地、屋久島、登録延期となった奄美大島などを取り上げ、その今を問い直し、未来を考える。 【資料番号】0560104346			
消滅遺産			520 シ	消滅危機世界遺産			709 エ
日経ナショナル ジオグラフィック社	ナショナルジオグラフィック／ 編 安倍 雅史／監修	2018年02月		原書房	ペーテル・エークハウト／著 金丸 啓子／訳	2022年11月	
バーミヤーンの大仏のように粉々になってしまったものから、都市計画の一環で解体されてしまったもの、紛争地帯で消滅の危機にさらされているものまで。世界の偉大な建築物を、かつての姿を記録した写真で紹介する。 【資料番号】0560079971				破壊・略奪・都市化・過度の修復…。「7つの災害」で危機に直面した23の世界遺産を、その成り立ちの歴史と現状の危機の原因とに注目し解説。歴史と被害をタイムラインで示し、地図も備え立体的に理解できる。 【資料番号】0560380377			
社会学で読み解く文化遺産			709 シ	イタリア 1・2			709 セ1・2
新曜社	木村 至聖／編 森久 聡／編	2020年11月		毎日コミュニ ケーションズ	小泉 澄夫／撮影 文 世界遺産アカデミー／監修	2007年11月	
あらゆるモノと文化を保存する「遺産化」現象のプロセスとは？制度・思想・欲望・環境の4つの視点と、世界遺産・産業遺産など13のフィールドから、新たな研究のステージを示す。巻末資料、人名・事項索引付き。 【資料番号】0560378860				世界遺産アカデミー監修公式ビジュアルハンドブック。永遠の都「ローマの歴史地区」や、キリスト教世界の中心地「ヴァチカン市国」など、イタリアのローマ、ヴァチカンとその周辺地域の世界遺産を美しい写真で紹介。 【資料番号】0501491827(1巻)、0501501288(2)			
すべてがわかる世界遺産大事典 上・下			709 セ1・2	ドイツ 1			709 セ1
世界遺産アカデミー／世 界遺産検定事務局	世界遺産検定事務局／著	2012年03月		毎日コミュニ ケーションズ	小泉 澄夫／撮影 文 世界遺産アカデミー／監修	2008年01月	
2012年3月現在の全世界遺産936件及び日本の暫定リスト記載の遺産12件を上・下巻に分けて、地域とテーマごとに掲載。上は、日本、アジア、アフリカ、オセアニアと、登録基準など世界遺産の基礎知識を収録する。下は、ヨーロッパとアメリカを収録する。 【資料番号】0550201350(上)、0550201368(下)				世界遺産アカデミー監修公式ビジュアルハンドブック。世界最大級の天井フレスコ画を誇る「ヴェルツブルクの司教館」や、ドイツ・ロココ様式の傑作「ヴィースの巡礼聖堂」など、ドイツ南部の世界遺産を美しい写真で紹介。 【資料番号】0501501270			
フランス 1・2			709 セ1・2	世界遺産なるほど地図帳			709 セ
毎日コミュニ ケーションズ	小泉 澄夫／撮影・文 世界遺産アカデミー／監修	2007年		講談社	講談社／編	2012年03月	
世界遺産アカデミー監修公式ビジュアルハンドブック。「ヴェルサイユ宮殿と庭園」「シャルトルの大聖堂」など、2000年を越えて発展するフランスの文化都市・パリとその周辺地域の世界遺産を美しい写真で紹介。 【資料番号】0501491819(1)、0501491800(2)				映画の舞台になった世界遺産、先史時代の人骨が発見された世界遺産、動物が主役の自然遺産など、53のテーマを大図解した、ひとめで世界遺産がわかるデータマップ。 【資料番号】0550208025			

世界遺産一度は行きたい100選 ヨーロッパ			709 セ1	世界遺産一度は行きたい100選 南北アメリカ・オセアニア			709 セ4
JTBパブリッシング	小林 克己／著	2009年04月		JTBパブリッシング	小林 克己／著	2012年08月	
セーナ河岸や、ウェストミンスター宮殿など、ヨーロッパの世界遺産のなかで観光に訪れるのにおすすめの100カ所をセレクトし、豊富な写真とともに紹介する。ヨーロッパの世界遺産リスト付き。データ:2009年1月現在。 【資料番号】0501568445				北米、メキシコ・中米・カリブ海、南米、オセアニアの100カ所の世界遺産をセレクトし、豊富な写真とともに紹介。南北アメリカ・オセアニアの世界遺産リスト付き。データ:2012年6月現在。 【資料番号】0550219528			
戦災等による焼失文化財			709 セ	世界遺産を平和の砦に			709 タ
戎光祥出版	文化庁／編	2017年06月		すずさわ書店	高橋 暁／著	2010年12月	
2003年までに戦災・失火で失われた国宝・重要文化財170件に加え、それ以後に失われた5件の記録写真や保存資料を収録する。文化財受難の事実を後世に伝える総目録・写真集。 【資料番号】0560380350				世界遺産条約は、観光のためのものではなく、世界平和を実現するためのツールである。日本におけるハーグ条約の本格的運用に際し、戦争・武力紛争後の文化復興のあり方について、沖縄・広島・長崎に学ぶ重要性を指摘する。 【資料番号】0560381415			
日本の世界遺産 東日本編			709 ニ	日本の世界遺産 西日本編			709 ニ
シンクタンク せとうち 総合研究機構	古田 陽久／監修 古田 真美／監修 世界遺産総合研究所／企画・編集	2008年02月		シンクタンク せとうち 総合研究機構	古田 陽久／監修 古田 真美／監修 世界遺産総合研究所／企画・編集	2008年02月	
日本にあるユネスコ世界遺産および暫定リスト記載物件等のうち、東日本に所在する物件を多角的に取り上げる。概要、恒久的な保存管理措置、遺産の継承、教育・観光・まちづくりへの利活用などを掲載。 【資料番号】0501536187				日本にあるユネスコ世界遺産および暫定リスト記載物件等のうち、西日本に所在する物件を多角的に取り上げる。概要、恒久的な保存管理措置、遺産の継承、教育・観光・まちづくりへの利活用などを掲載。 【資料番号】0501536195			
世界遺産ガイド ウクライナ編			709 フ	世界遺産を救え!			YA 709 ホ
シンクタンク せとうち 総合研究機構	古田 陽久／著 世界遺産総合研究所／企画・編集	2022年03月		創元社	レオ・ホブキンソン／著 武井 摩利／訳	2022年07月	
ロシア連邦の軍事侵攻によって危機的な状況にあるウクライナの「ユネスコ遺産」を特集。ウクライナの「世界遺産」「世界無形文化遺産」「世界の記憶」のほか、「危機にさらされている世界遺産」なども取り上げる。 【資料番号】0560381383				世界各地にある世界遺産は、常に、自然災害や戦争、気候変動、環境汚染などの脅威にさらされている。世界遺産を守るため、人々がどのように力を合わせているかを、豊富な図版とともに紹介する。 【資料番号】0560381375			
世界遺産とは何か?			709 ホ	世界遺産で考える5つの現在			709 ミ
世界遺産 アカデミー	北海学園大学人文学部 世界遺産研究班／編著	2020年09月		清水書院	宮澤 光／著	2020年02月	
世界遺産は、異なった時代や地域を対象とする研究を結びつけ、それらを人類史的視点から見直すきっかけをくれる。世界遺産の裏に流れる「物語」を、北海学園大学を中心とする研究者がさまざまな角度から読み解く。 【資料番号】0560221249				政治的に不安定な地域での世界遺産の保護の難しさ、人類の歴史の「負の遺産」を伝える世界遺産…。都市開発や観光問題など、世界遺産を通して見ると少し違う見え方がある「5つの現在」について考える。 【資料番号】0560204831			

未来のアラブ人[1]～[3]			726 サ 1～3	ザ・ディスプレイスト			936 ザ
花伝社	リアド・サトゥフ／作 鶴野 孝紀／訳	2019～2020 年		ポプラ社	ヴィエト・タン・ウェン／編 山田 文／訳	2019年02 月	
シリア人の大学教員の父、フランス人の母のあいだに生まれた作家リアド・サトゥフの自伝的コミック。父が「未来のアラブ人」になれと望むリアドは、文化のはざまに戸惑い、歴史的事象を目撃しながら、たくましく育っていき…。(1巻より) 【資料番号】0560143840[1]・0560192880[2]・0560227066[3]				故郷や大切な人を失った痛みと喪失感、「存在しないこと」を強いられる彼らの痛みは、新しい物語へと編みなおすことができるのか…。世界各地の難民作家18人が綴る「場所を追われた者」たちの物語。 【資料番号】0560170570			
ウクライナ日記			985 ク	私の東京			C J46 ク
ホーム社	アンドレイ・クルコフ／著 吉岡 ゆき／訳	2015年07月		国松春紀	国松 春紀／著	2020年01月	
2013年11月、欧州連合協定を反故にした政府に対し、市民デモ「マイダン革命」が勃発した。ウクライナの国民的作家クルコフによる、「マイダン革命」勃発後半年間の克明な記録と考察。池上彰の情勢解説も収録。 【資料番号】0550429200				【資料番号】0560288340			
ウクライナを知るための65章			302 ハ	世界遺産			709 ナ
明石書店	服部 倫卓／編著 原田 義也／編著	2018年10 月		岩波書店	中村 俊介／著	2019年08月	
自然環境、歴史、民族、言語、宗教、芸術、文化…。研究者をはじめ、現地の情勢に詳しいマスコミや企業、官公庁勤務の執筆者らが、様々な面からウクライナの魅力を紹介する。現代ウクライナの諸問題も取り上げる。 【資料番号】0560382132				観光資源として注目される一方、課題や矛盾も表面化し始めている世界遺産。数々の現場を訪ね歩いたジャーナリストが、その光と影に目を向けながら、文化遺産保護のあり方を考える。 【資料番号】0560382413			
ベラルーシを知るための50章			302 ハ	世界遺産事典 2024			709 ク
明石書店	服部 倫卓／編著 越野 剛／編著	2017年09 月		シンクタンク せとうち総合研究機構	古田 陽久／著 世界遺産総合研究所 ／企画・編集	2024年04月	
ソ連邦の解体に伴い1991年に独立した新興独立国、ベラルーシ共和国。国土と歴史や国民・文化、政治・経済事情、日本との関係を紹介する。ロシア語読み・ベラルーシ語読み対応の地名・人名索引付き。 【資料番号】0560382140				ユネスコの世界遺産1199全物件のプロフィールを地域別、国別、登録年順にコンパクトに整理。正式英語名、所在位置、自然遺産・文化遺産・複合遺産・危機遺産などの種別、登録基準、登録年等の概要を紹介。 【資料番号】0560383272			
拡大する文化財・文化遺産			069 カ	世界遺産を平和の砦に			709 ク
雄山閣	富岡 直人／編 松岡 智子／編 徳澤 啓一／編	2024年02月		すずさわ書店	高橋 暁／著	2010年12月	
文化財・文化遺産の保存と活用が推進されるなか、自然、文化、技術などによる所産の概念が拡大していく。改正博物館法の施行にあわせ、博物館資料・標本、文化財・文化遺産の概念や価値に対する新しい考え方や最新事情を示す。 【資料番号】0560383850				世界遺産条約は、観光のためのものではなく、世界平和を実現するためのツールである。日本におけるハーグ条約の本格的運用に際し、戦争・武力紛争後の文化復興のあり方について、沖縄・広島・長崎に学ぶ重要性を指摘する。 【資料番号】0560381415			
				悲劇の世界遺産			290 イ
				文藝春秋	井出 明／著	2021年05月	
				世界遺産には、光と影の両義性が含まれている。戦争や災害などの悲劇の記憶を巡る旅＝ダークツーリズムの視点から、アウシュビッツ強制収容所、産業遺産、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産、震災遺構等を掘り下げる。 【資料番号】0560380037			

じどうしょ 児童書

戦場の秘密図書館			010 ト	日本とのつながりで見えるアジア 6			220 ニ 6
文溪堂	マイク・トムソン／著 小国 綾子／編訳	2019年12月		岩崎書店	清原 エ／著	2003年04月	
政府軍により完全封鎖され、日々空爆される。それでも人々は「本」を糧に絶望的な状況を生きぬいた！シリア内戦下、ダラヤの町の地下にできた秘密図書館を守った若者たちのノンフィクション。 【資料番号】0560162103				日本との関係を軸にしなが、今関心を集めている西アジアの国々を学ぶ。イスラム教、砂漠など、遠く感じられる国々が意外なところで結びついていることを紹介。 【資料番号】0501134161			
学研まんがNEW世界の歴史 13			M 209 ガ 13	目で見える世界の国々 61			290 メ 61
Gakken	近藤 二郎／監修	2023年07月		国土社	ダン・フィルビン／著 石浜 みかる／訳	2002年03月	
世界の政治・経済・文化の歴史を、中心となる人物を軸にオールカラーのまんがで描く。13は、ロシアのウクライナ侵攻など2001年以降の出来事を取り上げる。背景にある世界観も年表や図表で解説。豊富な豆知識・注釈付き。 【資料番号】0560340975				地中海の東の端に位置し、交易と、周辺民族による侵略の歴史から、文化が複雑に混ざり合う国シリア・アラブ共和国。その国土・歴史と政治・くらしと文化・経済といった多角的な視点から、シリアを紹介する。 【資料番号】0501318063			
行ってみたいなあんな国こんな国 3			290 13	アフガニスタン			302 +
岩崎書店	東 菜奈／作	1999年04月		ほるぷ出版	スーザン・ウィットフィールド／著 トマス・バーフィールド／監修 マリハ・ズルファカル／監修	2009年08月	
世界の国々の産業、宗教、生活、遊びなど様々な文化や習慣を、イラストで紹介するシリーズ。3巻は、サウジアラビア、シリア、トルコ、ロシア、ブルガリア、チェコなど11の中東と東ヨーロッパの国々を紹介する。 【資料番号】0501178706				数多くの写真と地図でアフガニスタンをヴィジュアルに紹介。地理自然、歴史、人と文化、政治と経済の5章にフォーカスして解説する。地勢、植生および生態系、歴史、人口、行政のテーマ別地図、スペシャルコラムなども掲載。 【資料番号】0550016436			
シルクロード歴史と今がわかる事典			YA 292 オ	狙われた国と地域 1			L 319 イ
岩波書店	大村 次郷／著	2010年07月		あすなろ書房	稲葉 茂勝／著 松竹 伸幸／監修	2023年08月	
中央アジアを媒介に東西文物の交流がはじまって2500年、シルクロードは今も新鮮な魅力に満ちている。トルコ・イスタンブールから中国・泉州まで、歴史を刻む建造物や人々の暮らしを、写真とともに紹介する。 【資料番号】0550095465				長期にわたって続くロシア・ウクライナ戦争。それを1日でも早く終わらせるにはどうすればいいのでしょうか。ウクライナの現状や子どもたちの暮らし、文化、歴史、ロシアとの関係などを写真と図でわかりやすく紹介します。 【資料番号】0560343118			

きみにもできる国際交流 7			319 キ7	世界の人びとに聞いた100通りの平和 シリーズ1			319 セ1
偕成社	西村 成雄／総監修 勝田 茂／監修 高階 美行／監修 こどもくらぶ／編・著 弘中 美生／イラスト	1999年04月		かがわ出版	伊勢崎 賢治／監修	2015年10月	
国際交流の視点から、子どもの目で世界をとらえた、はじめての本。各国の衣食住や家族、学校生活や子どもの遊びについて、豊富な写真とイラストで紹介する。7巻はトルコとシリアを紹介する。 【資料番号】0501178615				世界16カ国の人びとに、その国で考えられている「平和」についてインタビュー。背景にある歴史や国際問題などをまとめる。シリーズ1は、シリア・アラブ共和国、イラン・イスラム共和国など、中東の国々を取り上げる。 【資料番号】0550443086			
世界のすてきな先生と教え子たち 2			372 12	世界のすてきな先生と教え子たち 4			372 14
国土社	井上 直也／写真・文	2016年02月		国土社	井上 直也／写真・文	2016年03月	
世界94か国の教育現場を訪問。そこで出会った、子どもたちを愛情深くやさしく導く先生たちと、キラキラ輝く笑顔をカメラに向ける子どもたちを写真満載で紹介する。2は、南・西アジア諸国を収録。 【資料番号】0550460328				世界94か国の教育現場を訪問。そこで出会った、子どもたちを愛情深くやさしく導く先生たちと、キラキラ輝く笑顔をカメラに向ける子どもたちを写真満載で紹介する。4は、ヨーロッパ北部・西部と北アフリカ諸国を収録。 【資料番号】0550471622			
写真で学ぶ世界遺産 3			709 シ3	100円からできる国際協力 6			329 ヒ6
汐文社	平川 陽一／編著	2015年04月		汐文社	くさば よしみ／著 国境なき医師団／協力 日本ユニセフ協会／協力 ピースウィンズ・ジャパン／協力	2013年04月	
豊富な写真とわかりやすい言葉で、教科書などでもよく見かける世界遺産を紹介。3は、万里の長城など、アジア・アフリカ各地にある世界遺産を取り上げます。アジア・アフリカエリア世界遺産一覧表、用語解説集も収録。 【資料番号】0550407679				世界には貧しさ・病気・戦争・環境破壊など、さまざまな問題で苦しむ人たちがいます。6は、被災した子どもたちに教科書を配るなど、100円からでもできる国際協力の具体例と、関連するデータを掲載します。 【資料番号】0550271163			
サニーちゃん、シリアへ行く			Eジ				
自由国民社	葉 祥明／絵 長 有紀枝／文 黒木 英充／監修	2016年08月					
うさぎのサニーちゃんは世界各地で苦しんでいる仲間に出うために、旅に出ました。行き先は、紛争のただ中にあるシリア。そこで出会ったのは、離れ離れになった友だちを探しているという女の子でした。 【資料番号】0550496937							

新宿区平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。

私たちは、世界で唯一の核被爆国民として、自らも戦火を受けた都市の住民として、戦争の惨禍を人々に訴えるとともに、永遠の平和を築き、この緑の地球を、次の世代に引き継ぐ責務がある。

国際平和年にあたり、私たちは、人類の生存に深刻な脅威をもたらす、すべての国の核兵器の廃絶を全世界に訴え、世界の恒久平和の実現を心から希求し、ここに新宿区が、平和都市であることを宣言する。

昭和61年3月15日 新宿区



戸山図書館

〒162-0052 戸山2-11-101 2階

開館時間:

火曜日～金曜日 午前9時～午後7時

(児童室は午後6時まで)、

土曜日・日曜日・祝休日 午前9時～午後6時

休館日:

月曜日(祝休日の場合は翌日)、館内整理日(第3木曜日)、年末年始、特別図書整理日

このパスファインダーは
再生紙を使用しています。